

遊覧船のくちづけ

想像の雪の降る街　あなたのせいでかわつちやつたって言いたいな
橋の実の黄金の曲線にこころは過去にとどまりたがる

みずうみに爪先を置きあなたからあなたへの円環のうちがわ

ミルクチョコレートを包む銀紙のさわっていない場所がやぶける

かなしくてかなしくなくてさかさまの花束のかたちのワンピース

くちびるとくちびるで鶏のハートを転がしてあなたを聴いていた

葉脈のようにひろげた腕が空中にのこってしづかに降ろす

冬の朝は正直な朝　傾いて月も頭もことばをこぼす

吐く息と同じしろさは臍にありわたしだけ知っている静寂

くちづけのために遊覧船ふたつちかづいてゆきはなれていった